



ボールアタッチメントデンチャーの 口腔内でのキャップアタッチメント取り込みについて

Legacy™インプラントには、ボールアタッチメントデンチャーのためのコンポーネントが用意されています。本システムの特徴は、デンチャー床内面に取り込まれるアタッチメントのフィメールが、Oリングではなくキャップアタッチメント構造になっている点です。(下図) そのため、アタッチメントの固定力維持のために行うフィメール交換が容易です。

キャップアタッチメントの床への取り込みは、デンチャーを製作する段階で同時に行うか、あるいは既製のデンチャーの床内面の相当する部位をくり抜き、口腔内で即時重合レジンにて行う方法があります。

今回、既製のデンチャーに口腔内で取り込む際、余剰レジンが少なく、さらに正確な位置に取り込むための手技をご紹介します。



① デンチャー床内面の、キャップアタッチメントが取り込まれる箇所を、少し大きめにくり抜きます。

② 口腔内のインプラントに装着したボールアバットメント頭部に、ナイロンライナーを取り込んだ、ハウジングをはめ込みます。ハウジング下方のアンダーカットをシリコン材料でブロックアウトします。(図1)

③ 一旦①で形成した穴にアルジネート印象材かフィットチェッカーを満たして、キャップアタッチメントを試適します。(図2)

④ 試適後、アルジネート印象材(またはフィットチェッカー)をピンセットで取り外し、透かして見ることによって、床に直接キャップアタッチメントが接触していないか確認します。(接触していると、正確な位置、角度にセットされない可能性があります)

また、アルジネート印象材(またはフィットチェッカー)の量を確認し、使用するレジンの量の目安にします。(適量のレジンを填入することにより、アバットメントのアンダーカットに流れ込まないようにします)

⑤ 適量の即時重合レジンで床内面の穴に填入し、口腔内にデンチャーを装着することにより、キャップアタッチメントを取り込みます。硬化後、余剰分があれば削除、あるいは足りない部分はレジンで仕上げます。(図3)

(情報提供・協力:新潟労災病院歯科技工室 松橋耕吉氏)



キャップアタッチメントが必要以上に高い位置で取り込まれると、ナイロンライナーへ過度なダメージを与えたり、ボールの変形の原因にもなります。

特に新規でデンチャーを製作した場合などは、アタッチメント設置前に約1週間義歯を装着し、デンチャーの最終的な高さが定まった状態でアタッチメントを取り込むと、適正に機能します。